

長久手未来まちづくりビジョン

人・場・時をつなぎ
夢をはぐくむ長久手

ながくてびと

長久手人こそ私たちの誇り

気長に手をかけ みんなで未来を拓く

長久手市

2015

目次

1	平成 62 (2050) 年 長久手人 (ながくてびと) 物語.....	1
1	人をつなぐ物語	2
2	場をつなぐ物語	4
3	時をつなぐ物語	6
4	夢をはぐくむ物語	8
2	長久手未来まちづくりに向けた4つの要素.....	11
3	長久手未来まちづくり 長期ビジョン.....	13
1	人をつなぐ/老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり	14
2	場をつなぐ/地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり	15
3	時をつなぐ/歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり	16
4	夢をはぐくむ/チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり	17
4	これからの展開	18
5	ビジョン作成のプロセス.....	19
1	長久手市の現状の把握	19
2	若者の意見 (若者座談会、中学生作文)	30
3	学識経験者等による意見交換 (長久手未来まちづくり懇話会)	34
	長久手未来まちづくり懇話会の概要	35

1

平成 62 (2050) 年 長久手人 (ながくてびと) 物語

21 世紀になってはや 15 年。長久手市を取り巻く社会環境は大きく変化し、日本は本格的な人口減少、少子高齢化社会を迎えています。

長久手市は、平成 62 (2050) 年頃までは人口増加を続けると予想されていますが、その後は人口減少期に入り、少子高齢化は長久手市においても確実に進展していきます。そこで、今から時間をかけてそれらの課題に対応していくため、平成 62 (2050) 年という長期を見据えた長久手未来まちづくりビジョンを作成することにしました。

本ビジョンの策定にあたっては、学識経験者等で構成された「長久手未来まちづくり懇話会」で検討を重ねました。また、若者の意見を聞くため、20 歳代から 30 歳代までの若者による座談会を開催したり、市内中学 2 年生 (平成 26 年度時点) を対象に「長久手市の将来」について作文を書いてもらったりしました。

さて、平成 62 (2050) 年頃の長久手市、日本はどのような生活になっているのでしょうか。情報技術や人工知能の技術が格段に進歩し、直接人と会わなくてもいつでもどこでもコミュニケーションができてしまうのは当たり前、行きたい時間に、行きたい場所へ連れて行ってくれる乗り物が当たり前になっているかもしれません。

その一方で、直接人と会って会話し、本物の歴史文化に触れ、芸術を体験したりすることがより一層大切になるとも考えられます。一人ひとりが心豊かに暮らせる社会を目指していく必要があります。

このまちづくりビジョンでは、今市内に住んでいる人や働いている人、かつては市内に住んでいた、働いたりしたことがある人など、長久手市に関わりがある一人ひとりを「長久手人 (ながくてびと)」と名付けました。

そして、このビジョンの内容について多くの方々に興味を抱いていただくため、ビジョンの冒頭に一人ひとりの長久手人が 2050 年にもいきいきと暮らしている姿を想像し、「長久手人 (ながくてびと) 物語」をまとめました。

※ここに書かれた物語の内容はフィクションです。

1 人をつなぐ物語

<長久手市 2050 年>

突然の名古屋市にある研究所への転勤で、総務部の勧めもあって長久手市に単身赴任で住むことになった。比較的新しいまちと聞いていたが、そんなことはなかった。まちづくりが始まってもう 80 年経つらしく、ここで開催された万博がもうすぐ 50 年経つとかで「サツキとメイの家」が登録有形文化財に登録されると話題になるなど、すっかり成熟したまちになっている。世界中でニュースになったあの南海トラフ地震の被害が長久手市では比較的少なかったため、名古屋都心の震災復興ビルに比べると古い街並みに感じるのかもしれない。

実は、以前にも来たことがある。大学キャンパスの周りに震災後の復興で研究所が集中的に立地して研究学園地区ができて国際学会がよく開催されていたからだ。日本でも英語が第 2 公用語になって久しいが、ここでは世界中の言語が飛び交う。自動翻訳機能のついたメガネや腕時計が普及しているから心配はないが、世界の中でも特殊な場所かもしれない。そんな長久手市に住むことになるとは想像もしていなかった。

<“ホームタウンの家” との出会い>

単身赴任なので研究所から寝るためだけに家に帰る生活だったが、いつも通勤途中に前を通る民家が気になっていた。そこには「ここは“ホームタウン（包夢多運）の家”。どなたでも気軽にお立ち寄りください」と書かれている。当初は福祉施設なのだろうかと思った。

ある晴れた日曜日、ふとあの民家をのぞいてみて驚いた。赤ちゃんを抱いたお母さんが縁側でおばあさんに育児相談をしているし、子どもが庭先で遊ぶなか、高齢の男性が庭仕事に精を出している。食事の支度をしていた年配のご婦人に声をかけられ一緒に昼食を食べることになった。まるで大家族のような不思議な感じで、居心地がよい。

その後もちょくちょく顔を出すうちに、全然知らなかったご近所の住民と次々と知り合いになった。「おはようございます」、朝の通勤途中も挨拶する人ができるようになって、だんだん自分のまち「マイタウン」の感じがしてきた。一人住まいなのに家に帰るのが楽しい。

<そして、本当のホームタウンに>

そして今では、家族を呼び寄せて一家 4 人で長久手市に住んでいる。団地育ちの私は、面倒な近所づきあいは要らないと思っていた。でも長久手市に来て考えが変わった。最初は不安がった妻も、そんな私をご近所づきあいをしていることに一番驚いていた。地域の年配者と話をしてみると、私と同じように転勤で移り住み、ここで子どもを育て上げた先輩たちも多い。何より驚いたのは、ここでの運営は市民が担い、物事も市民が話し合って決めるという。だからこそ、よそ者の気持ちが分かるし、気さくでオープンな雰囲気ができるのだろう。

小学校では、一人ずつ自分の好きなことをクラスメイトの前で話す「Show And Tell」の

時間があって、英語しか話せない子ども達もおかげですっかり学校にもなじんでいる。それだから長久手市の子どもは「我がまち自慢」が上手で積極的な子どもが多いのだろう。世界中を飛び回って仕事をしている妻も、長久手市は外国からの研究者や海外生活経験者も多くインターナショナルな雰囲気なのにアットホームだと気に入っている。

＜そして、世界のホームタウンに＞

今では、新参者の私が“家”の運営委員にもなって積極的にまちづくりに取り組んでいる。「自分達のまちは、自分達でつくる」、「自分達に合ったまちづくりを工夫する」、よく考えれば当たり前のことだ。それができるのはマイタウンという当事者意識を一人ひとりがもって生活しているからだとして強く感じる。最初は不安がっていた妻も子どももご近所に友達がたくさんできた。歩いて行ける範囲にたくさんの顔見知りがあることの安心感は、なにものにも代え難い。監視カメラのような機械だけに頼らず人々の目が地域の隅々まで行き届いた安全なまちであり、シンガポール出身で世界中を移り住んできた私たち一家だからこそ、このことがわかる。そして私たちを“外国人”と言う人もいない。

今は自動翻訳機を使えば機械がしゃべってくれるし、テレビ電話を使えば離れたところにもコミュニケーションが簡単にできてしまうが、そんなバーチャルな付き合いでは心が通わない。人と人が顔を合わせて直接会話をする本物の付き合いをするからこそ、言葉の壁も短時間で取り除くことができる。片言でも理解しようとしてくれるし、元商社のOBが手助けしてくれる。新参者でも伝統的な祭りに参加できるオープンなコミュニティもある。私たち家族はきっと、長久手市が“終の棲家”すなわちホームタウンになるだろう。



2 場をつなぐ物語

<本物を追いかけて、エアタブレット1つで「みんなの鳥図鑑」をつくる>

私は小さい時に長久手市に引っ越してきた。自宅の周りには家がたくさん建っているけれど、公園や神社、お寺が近くにある木や草花が茂り、小鳥のさえずりが聞こえるいい所だ。東の方には森が広がり、香流川が流れている。中学校の授業が終わると、友達と一緒に森に入り込んで鳥や昆虫を追いかけていたりしている。

両親からは、もしもの時のためにと腕時計タイプの端末を持たされている。この端末は空間に情報を映し出すエアタブレットで、知らない鳥を見つけた時には写真や動画を撮影できる。「この鳥は何？」と話しかければ撮影したものと似た鳥を幾つかインターネットから探し出してくれる。撮影した動画に鳥の名前や特徴をメモ書きすれば、GPSと連動しているので見つけた地点の住所（緯度、経度）や日時、気候などの情報も自動で記録される。友達も同じような端末を持っていて、新しい鳥を見つけた人がどんどん記録して、「みんなの鳥図鑑」を更新する日々を過ごしている。同級生はゲームに夢中な人が多いけど、私の周りには本物の鳥や昆虫、魚など生物に興味を持つ友達や男友達が意外と多い。

<市内の大学で友達と研究し、立派な「みんなの鳥図鑑」に>

鳥のことをもっと詳しく知るために、インターネットを使って研究者を検索し、ある先生と連絡をとるようになった。その人はヨーロッパの大学の先生で、鳥の特性を調べたいと相談したら、今は動物の特性について自分でも研究できる方法があり、なんと、その研究をしている大学が長久手市にあると教えてくれた。灯台下暗しだ。早速、大学にメールを出したら、大学に来てもいいよということになった。ここではいろんな動物の行動を調査し、プログラミングをしてデータを取る研究がされているという。私は、プログラムの研究者が本物の動物を使って行動を研究していることと、しかもその大学が市内にあることに驚いた。大学にいつでも通っていいと認められ、私は友達と一緒に何度も大学に足を運び、夢中でプログラムを習得した。そして、友達と森に出かけて鳥に発信機をつけて行動を追い、成果を記録していった。記録した鳥は1,000種類を超え、立派な「みんなの鳥図鑑」になった。

<アートを教えてくれた大学生のお姉さん、長久手市をフィールドに作品づくり>

最近、素晴らしい記事をインターネットで知った。昨年、中学校の美術の授業で教えに来てくれた大学生のお姉さんのことだ。顔の写真が載っていたからすぐにわかった。

お姉さんは愛知県内の出身で、市内の大学に入学して3年生から長久手市で一人暮らしを始めた。大学ではアートを学んでいるが、週末も大学の延長で自分の趣向でアート作品を作っていることも多い。作品に使う材料の多くは拾って来た木、葉、石などの自然素材で、アート作品をつくる環境として、長久手市は大学、美術館もあり、都市も自然もあり、名古屋

にもすぐに出られるのでいい所だそうだ。

作った作品を撮影し、動画配信サイトに投稿を続けていた。そんな1年前のある日、お姉さんの元に海外の企業から連絡が入った。わが社のコマーシャルにあなたの作品を使わせてほしいとの依頼だった。その企業は日本でも知られている企業だ。お姉さんはびっくりしたが、チャンスだと思いその話を引き受けることにした。作品の納期は短く、作業は大変だったが寝る間も惜しんで作品を仕上げ、3次元映像を撮影して相手に送った。

<長久手市にいて、世界から仲間を集めて、世界の企業をクライアントに>

そして、その企業のコマーシャルがテレビやインターネット上などいろんなメディアで配信され、国内外の複数の企業から依頼が来るようになった。お姉さんは今4年生で、普通なら就職活動にテンヤワンヤだが、この経験を生かしアート作品をつくり続け、素材や作風が異なるアーティスト仲間で工房をつくって、世界を股にかけて仕事をしていきたいと考えている。そのために『ロングハンズ』という名前を用意している。長久手市ならではの名前で、作品とともに長久手市も世界に売り込んでいく予定だ。最後にこのように夢をつづっている。

「いつか長久手工房が年に一度、世界中からアーティストが集まるハブ工房となり、市民と海外アーティストの交流を深めていきたい。」

あのコマーシャルの作品をお姉さんが作っていたなんて、誇らしいと思うとともに、私ももっと頑張ろうと思った。世界中には日本よりも広大な自然がいろんな所にある。私も将来は、世界各地に出かけて鳥に関する研究者になりたい。



3 時をつなぐ物語

<年寄りが忙しいまち>

「世間では『長久手市は日本一の福祉のまち』なんて言っているが、とんでもないまち」だと私の夫はよくぼやいている。夫はもう 70 歳を超えた年寄りなのに、今だに色々な活動や仕事に出かけて行く。このまちは年寄りでもそっとしておいてはくれない。高齢者や障がい者の介護サービスでボランティアをすると、老老介護だと相手から嘆かれることもあるが、夫は人様の役に立つことでやりがいを感じているみたい。この分だと、夫はまだしばらくは隠居する様子はないでしょう。

<みんなで子どもを支えあう>

2050 年にもなると長久手市の人口は 6 万人を超え、その分いろんな世代の人が子育てに関わっているの。年寄りが現役時代のノウハウを地域で生かすのもよし、趣味が高じてちょっと小遣い稼ぎをしてもよし、学生などが手伝いに来るのもよし。私も夫も近所の保育所や“ホームタウン（包夢多運）の家“で小さな子どもを世話するバイトを楽しんでいるし、バリバリ働く若いお母さんとも仲良くなれる。長久手市では、市民ができることは市民に任せる精神が浸透して、市民同士で支えあう仕組みを持っているから、子どもをみんなで支えあうことが可能だと思う。

<私はフルマラソンに挑戦、夫は私のトレーナーに>

私は 60 歳を超えているけど、フルマラソンに挑戦している。実は本格的に走り始めたのは 50 歳代になってから。長久手市ではそれほど珍しいことではなく、何歳からでもアスリートに挑戦ができる。それが可能なのは、医療機関のリハビリセンターや大学のスポーツ研究機関など健康をサポートする体制が整っているから。病院で渡された腕時計をしているだけで毎日の食事や運動など健康センターから毎日アドバイスが届く。おかげで、夫は私のトレーナーになって、食事の世話から始まって家事一切をしてくれるようになり、今ではすっかり主夫に目覚めているみたい。男の料理教室や野菜づくり教室などによく出かけ、歳をとってから新しいライフスタイルを学ぶ機会もたくさんあって地域の仲間も増え充実している。

<手間をかけるまち長久手市>

このまちには「長久手市で多く手間をかけたアナタが大賞」（略して長手間大賞）というとんでもないコンテストがある。手間をかけることを大切にする文化があるという。最初は何のことだか訳が分からなかったけど、最近になってわかってきた。地域のつながりがあるということは、そもそも煩わしく手間のかかること。だったら手間を楽しんじゃえ、という

趣旨なのでしょう。先日、私の中学生の孫が長手間大賞をもらったと喜んで自慢に来た。小さい頃から“ホームタウン(包夢多運)の家“でお世話になった孫は、中学生になった今ではその運営に関わり、新しく長久手市に引っ越してきた子どもがすぐに地域に溶け込めるようにと子ども同士の関係づくりに取り組んでいて、そのことが評価された。きっとこの子らが大人になる頃にはこのまちはもっと良くなっているような気がする。

<よそ者が歴史や伝統を守り継ぐ>

夫は今では地域の祭りの保存会長もやっている。そもそも夫は長久手市の生まれではなく、私がまだ 20 歳代、夫が 30 歳代のときに家を建て越してきた。越してきてすぐ、夫はお祭り好きなものだからひよんなことで仲間に加えてもらい、もう 40 年近く経つ。ある時、地域の古老から保存会長を任せたいと頼まれた。夫はいつも「地域の祭りは、伝統を大切にしながらも時代に合わせて変わっていけばいい」と言っていたけど、古老も地元の友人も「その考えでいいからあなたに任せたい」と言ってくれたので引き受けたみたい。夫は、今の子ども達や若い親たちがどうしたら関心をもってくれるのかをいつも考えていて、伝統を「守る」から「育て」、新たに「創る」ことで新しい世代に継いでいけるようになると思って取り組んでいる。そういえば、長久手市には大学生や転勤家族、外国人も多くて積極的に祭りに関わっているようだけど、これも夫の働きかけなのかしら。

長久手市は、歳をとってからもイキイキ健康な生活ができるまち、体が不自由になっても助け合ってイキイキ暮らせるまちだから、「日本一の福祉のまち」と言われるのだと思う。長生きするなら長久手市がいいな。



4 夢をはぐくむ物語

<故郷の長久手市に帰り、レストランを開く>

私は長久手市で生まれ育ち、家族で市内のいろんなレストランを巡るのが好きだった。レストランのオーナーや店員のいきいきとした顔を見て、大人になったら長久手市でレストランを開くことを夢見ていた。その夢をずっと持ち続け、国内外のレストランで修業を積んだ。妻は愛知県生まれで歳は1つ上、東京のレストランで働いていた時によく来てくれて、同郷だったこともあって次第に恋愛へと発展して結婚した。2人の子どもに恵まれ、しばらくは共働きの生活を続けていた。

長久手市を出てからの約10年間は、ほとんど故郷の長久手市には帰らなかったが、結婚し、子どもが生まれてからは毎年、実家に帰るようになった。リニア新幹線は大阪まで開通しているが、東京～名古屋までは当初の40分から30分に短縮され、帰郷するのも楽になった。そんなことを繰り返しているうち、次第に夢を実現したいと思うようになった。帰郷した際に市内の空き店舗を探したら、自分が思い描いていたレストランの規模にちょうどよい物件があった。次は食材をどのように調達するのだが、幸い両親が趣味で野菜づくりをしていて期待できそうだ。住まいは実家が古くなってきたので、三世代が住める家にリノベーションすればいい。妻に自分の夢を話したら承諾してくれて、その物件を借りることにした。妻も私も職場を退職し、長久手市に戻ってレストランを開設した。

<市内の農産物を食材に>

レストランを開設した後、しばらくは両親が作る野菜を料理に使わせてもらい、足りない分は市場のものを購入していた。両親が作る野菜の素材を生かした料理を作るのに心がけており、レストランを訪れるお客さんの反応は良い。両親は気をよくして、新しい野菜づくりにも取り組むようになった。こうして、両親が作る野菜の種類が次第に増えていった。

両親が作った野菜を使って料理を出すうちに口コミで伝わったからか、私の産品も使わせてほしいという周辺の農家が複数現れた。両親とこれらの農家が作る産品を提供していただくことで野菜、果物、肉、卵、乳製品など様々な食材がそろい、“地産地消のレストラン”として堂々と掲げることができるようになった。そのおかげで、レストランの客入りはますますよくなった。

さらに嬉しいことに、産品を提供して下さるみなさんは、市内の産直市場でも野菜を販売し、私のレストランに提供している野菜ということを知ったら売れ行きがよくなったと言って下さった。こうして、私のレストランは産品を提供して下さる両親や周辺の農家のみなさんに支えられ、そのみなさんも“長久手産”を誇りに農家を続けている。しばらくこのいい関係は続くだろう。

＜お隣は、かつて妻がヨーロッパで単身赴任を経験＞

そういえば、私の自宅のお隣のご夫妻は、一年前までの2年間に妻が海外で単身赴任をし、その時は夫が子育てをしていたそうだ。妻の方が私と同じ長久手市出身で、学年が違うため面識はなかったが、小学5年生から高校生まで長久手市で過ごし、大学は関西に出て、就職時は名古屋の外資系企業に勤めることになった。就職してから数年たった頃、営業先で夫と知り合い、何度か仕事を一緒にするうちに意気投合して結婚に至った。結婚後は妻の両親の家の近くにと、隣の家を中古で買い、それから3人の子どもに恵まれた。

そして3年前に、妻が会社に何度も要望してきたヨーロッパへの異動が決まった。このことは、夫には結婚前から伝えていたそうで、夫も自分には子育てが向いているので家のことは心配せずに頑張って来いと送り出したようだ。妻が単身赴任中、夫は長久手市の地域で子育てをするサービスや企業の育児短時間勤務制、民間のベビーシッターのサービスなども上手く使って暮らしていたそうだ。長久手市にいれば、地域で子育てを支える仕組みがあるので、お隣の家族も安心して暮らすことができる。

今では妻も隣に戻ってきて、家族5人が仲良く暮らしている。かつて地域で子育てを支えてもらった恩返しにと、今度は夫と妻が子育て支援をする側になっているそうだ。

私もお隣も地域の人々に支えられながら、夢を実現した。そんな様子を見た子どもたちも、長久手市で育ち、自分たちの夢を叶えてほしいと思う。長久手市はそれを可能にするまちだと思う。



2

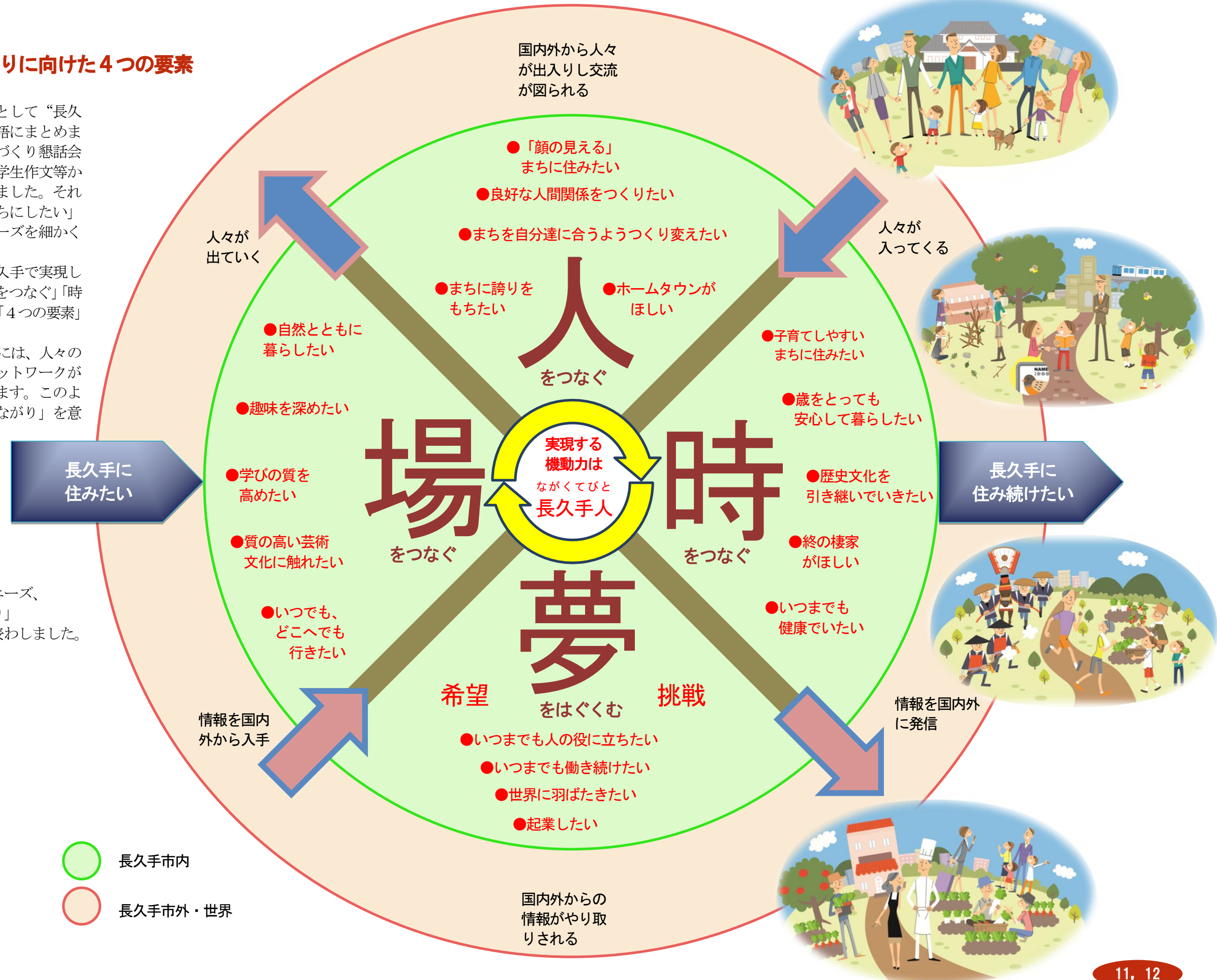
長久手未来まちづくりに向けた4つの要素

前章では、このビジョンの導入として“長久手人”が育っていく姿を4つの物語にまとめました。これらは、長久手未来まちづくり懇話会における検討や、若者座談会、中学生作文等から引き出した意見をもとに作成しました。それぞれの物語の中には「魅力的なまちにしたい」という若者を中心とした住民のニーズを細かく散りばめています。

4つの物語に描かれた未来を長久手で実現していくためには、「人をつなぐ」「場をつなぐ」「時をつなぐ」「夢をはぐくむ」という「4つの要素」が求められます。

あわせて、平成 62 (2050) 年頃には、人々の活動が広がり、情報処理技術とネットワークが相当進化していくことが予想されます。このような「人々や情報の国内外とのつながり」を意識する必要があります。

以上のことから、「4つの要素」「魅力的なまちにしたい」というニーズ、「人々や情報の国内外とのつながり」を盛り込んで、右のイメージ図に表わしました。



3

長久手未来まちづくり 長期ビジョン

前ページの「未来のまちづくりに向けた4つの要素」をもとに、長期ビジョンをまとめました。長期ビジョンは、4つの要素を合わせた「全体テーマ」と4つの要素を個別に方向性を示す「個別テーマ」に分けて整理します。

全体テーマ

人・場・時をつなぎ 夢をはぐくむ長久手

ながくてびと

長久手人こそ私たちの誇り 気長に手をかけ みんなで未来を拓く

個別テーマ（幸せの四つ葉のクローバー）





1 人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

(1) コンパクトなまちの中で世代を越え、地域を越えて人々がつながる。

- 原則歩いて暮らせる、コンパクトな市街地を形成することで、「顔の見える」まちづくりを進めていく。
- 世代や地域を越えて、市民、市民団体、事業者などが気軽に集まり、市や地域の様々な課題について語り合うことで、相互理解を深め、共通認識を持つようにしていく。地域活動を通して、年齢や肩書には関係なく、自由な人間関係が生まれる。人と人とが顔を合わせて本物の付き合いができるようにしていく。
- まとまりやすいコンパクトなまちの規模を活かし、全国に発信できる全市民レベルのイベントを皆でつくりあげていく。

(2) まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。

- 暮らしているまちに対して誇りや愛着を持ち、歴史、健康、福祉などのいろいろな分野で自慢でき、物語のある、誰かに語りたくなることが数多くあるまちにしていく。
- 長久手市をより良くするために、他力本願でなく、まちの一員だという当事者意識を持って自ら行動を起こす市民を増やしていく。誰もが地域に関わる活動をする。自分達でやらなければならないことがたくさん見つかるまちを目指していく。
- 長久手市の様々な計画を策定する際には、策定プロセスの中で市民が主体となって計画を作っていく。

(3) いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

- 進学・就職・転勤・結婚などの理由で、長久手市から一旦市外に出て行っても、帰ってきたいと思えるようなホームタウンにしていく。
- 多くの顔見知りができる程に住民同士が交流を深められる環境づくりを進め、温かく送り出し、温かく迎え入れられるホームタウンにしていく。

2 場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

(1) 市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。

- 市街地において区画整理によって減少した緑を増やすとともに、丘陵地の自然を守り、育てることにより、市内全域で人々が憩える緑の空間を広げてつないでいく。
- 多様な生物が共生できるビオトープ・ネットワーク^{*1}を形成する。
- 都会的発展をし過ぎないように、都市と自然のバランスの取れたまちを目指していく。

(2) 集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。

- 市内および周辺に大学や研究施設が集まっていることは長久手市の特徴である。その機能や空間を大人から子どもまで活用するとともに、大学や研究施設のほうから、まちに教員や学生が出て行くアウトリーチ活動^{*2}により、市民と連携できる環境を整えていく。
- 大学や研究施設に限らず、文化の家、博物館、美術館、スポーツ施設などの拠点も市民が使いこなし、それらのアウトリーチ活動を地域に引き込んでいく。

(3) 市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

- 自家用車を使わず、N-バスの利便性向上や自転車、シニアカート、路線バスなど、また将来導入が想定される超小型車や電動二輪車など、様々な手段による移動ができるよう道路等の空間づくり（自動運転専用道など）、仕組みづくり（カーシェアリング等）を進めていく。
- シニアカート、歩行者については安全に配慮して自動車の走行空間と分離をし、遊歩道等の整備を進めていく。車を心配せずに通行でき、子どもが遊べて大人が憩える多目的な空間づくりを目指していく。

*1 「ビオトープ・ネットワーク」とは、森林、河川、公園、街路樹など多様な生物の生息場所をつなぐ取組のこと。

*2 「アウトリーチ活動」とは、大学や研究機関の教員や学生、研究者などが研究活動への関心を高めるため、自ら地域に出て活動すること。



3 時をつなぐ／歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

(1) 地域の歴史と文化を継承し育て、生涯を通じて学び成長する。

- 地域の歴史や文化などを子どもの頃から学び、地域の人々とふれあう学習を積極的に導入する。大人になっても学び続けて成長していく。
- 伝統的な祭りの伝承や歴史文化の継承に向けて、子ども、大人、高齢者が役割を担って参加し続けていく。
- 新たな市民も参加し、時代の変化も受け入れて歴史や文化を育てていく。

(2) 一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康寿命を延ばして生涯を全うする。

- 体の健康を維持していくために、屋内外を問わず、いつでもどこでも様々な運動ができる場を整備するとともに、運動をサポートしていく体制をつくっていく。
- 心も健全であり続けられるよう、市民一人ひとりがいくつになっても役割を持ち、コミュニケーションをとれるようサポートしていく体制をつくっていく。

(3) 人や地域の成長に合わせて皆で手間をかけ、コミュニティをつくる。

- 子どもの成長や独立、親の高齢化など、人や家族の成長変化に合わせて、皆で手間をかけ、地域で支えあうコミュニティをつくっていく。
- そこには高齢者や障がい者、子育てを見守る福祉コミュニティがあり、また地域課題を地域で解決できる、良好な人間関係を構築したコミュニティもある。地域での見守りと良好な人間関係の両方の機能を持ったコミュニティづくりを目指していく。

4 夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

(1) 誰もがいくつになっても役割を担いチャレンジできる。

- いくつになっても地域コミュニティの中で役割があり、それを担うことで生きがいを持ち暮らしていけるようにしていく。
- 働きたい人はいくつになっても働くことのできる多様な場があるようにしていく。

(2) 若者の夢をまちぐるみで育てる。

- 意欲があり起業を望んでいる若者に対し、その起業を支援する仕組みをつくっていく。
- 長久手市に住み続けながら、世界とつながって仕事をする人をまちぐるみで応援していく。

(3) 誰でも希望を持って暮らせる。

- 誰でも希望が持てるよう、長久手市ならではの学校教育を通じて子どもの時から育み、大人も地域ぐるみで支援していく。
- 悩みや生きづらさを抱えている人々に対し、地域の人が寄り添って支えていく。

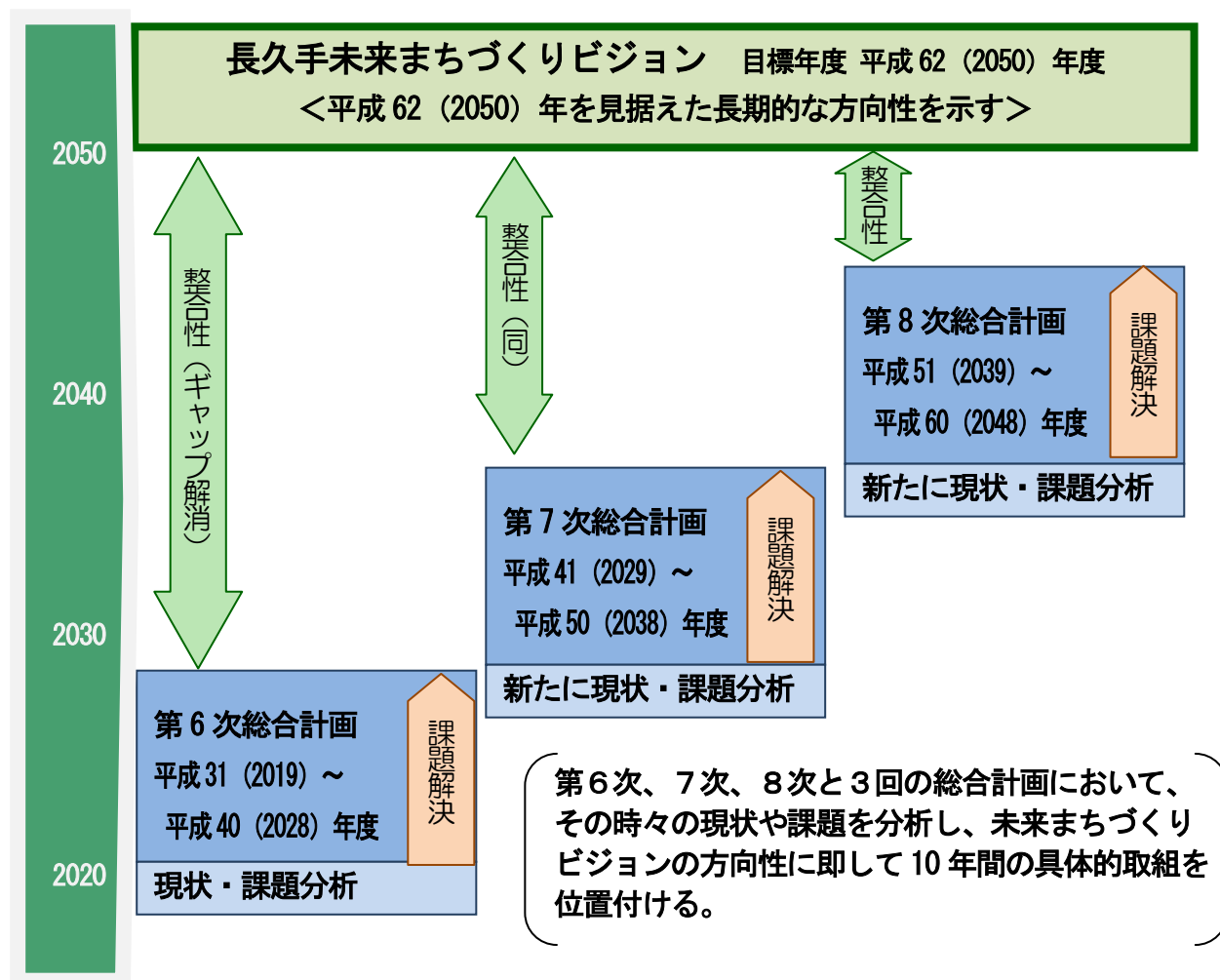
4

これからの展開

ここで掲げた未来まちづくりビジョンは明るい未来を見据えて描いています。そのビジョンを実現するためには、地域社会の現状や様々な問題・課題に向き合い、具体的な取組を施策の中に位置づけていくことが重要です。

そこで、その時々々の現状・課題分析やそれらを解決するための具体的な施策については、今後策定する10年計画である総合計画の中で反映させていきます。平成62(2050)年までの間に長久手市総合計画は第6次、第7次、第8次と3回の策定が予定され、この3回の策定の中で市民と行政が共に計画づくりを行い、順次その時々々の現状や課題を解決しながら未来を拓いていきます。

＜未来まちづくりビジョンと総合計画の関係性＞



※ビジョンも固定ではなく、社会情勢に合わせて見直していく。

5

ビジョン作成のプロセス

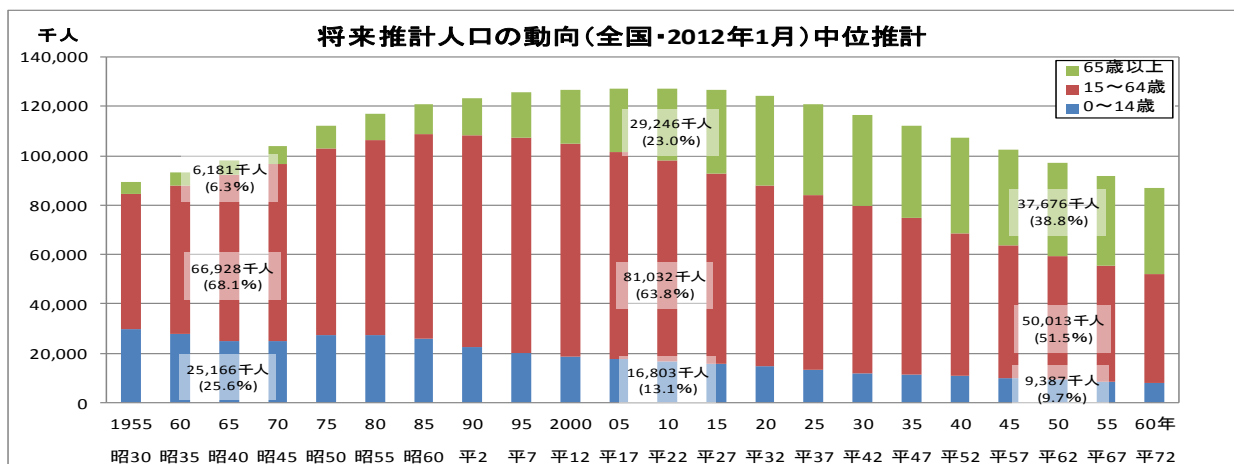
1 長久手市の現状の把握

ビジョンの作成にあたり、今の長久手市の現状がどうなっているか、あるいは今後どのように変化すると予想されるかなどを整理しました。ここでは6つの視点について整理します。

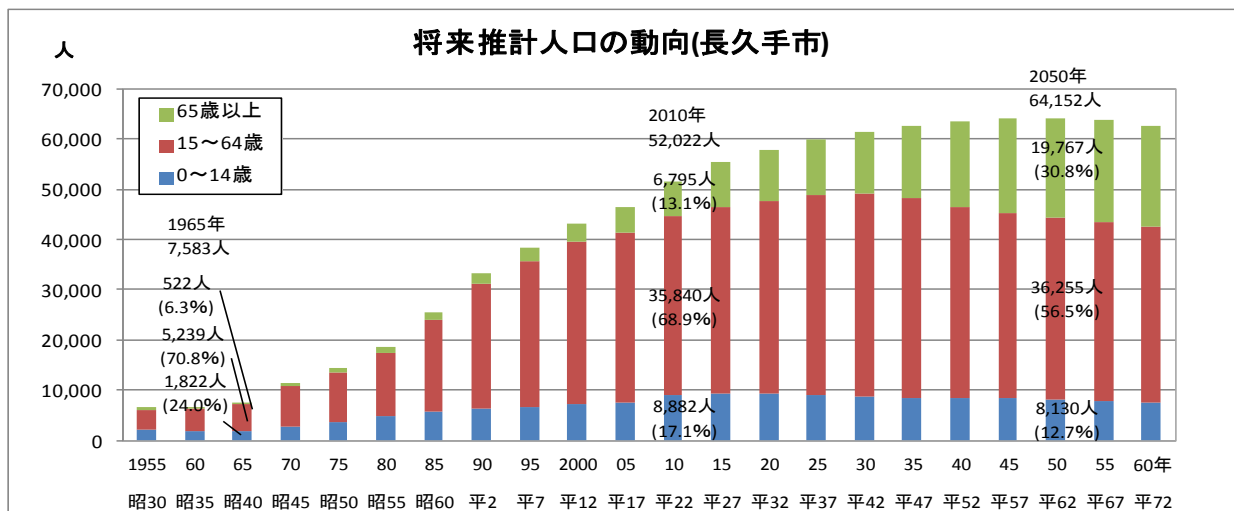
① 人口構造の変化

平成 62 (2050) 年頃の日本の人口は高度成長期が始まる頃の人口 9 千万人程度となるが、年齢構成が全く異なり、高度成長期における年少、生産年齢人口が多い人口構成から平成 62 (2050) 年には超高齢社会となっています。

長久手市は、全国的にもまれで平成 62 (2050) 年まで人口は増加しますが、人口構成は 0～14 歳の年少人口、15～64 歳の生産年齢人口の減少、65 歳以上の老年人口の増加へと変化していき、平成 62 (2050) 年を境に人口減少社会に入ると推計されています。



資料：「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」及び「人口統計資料集・Ⅱ．年齢別人口」を元に作成



資料：国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したデータ及び国勢調査を元に作成

② 限られた財源

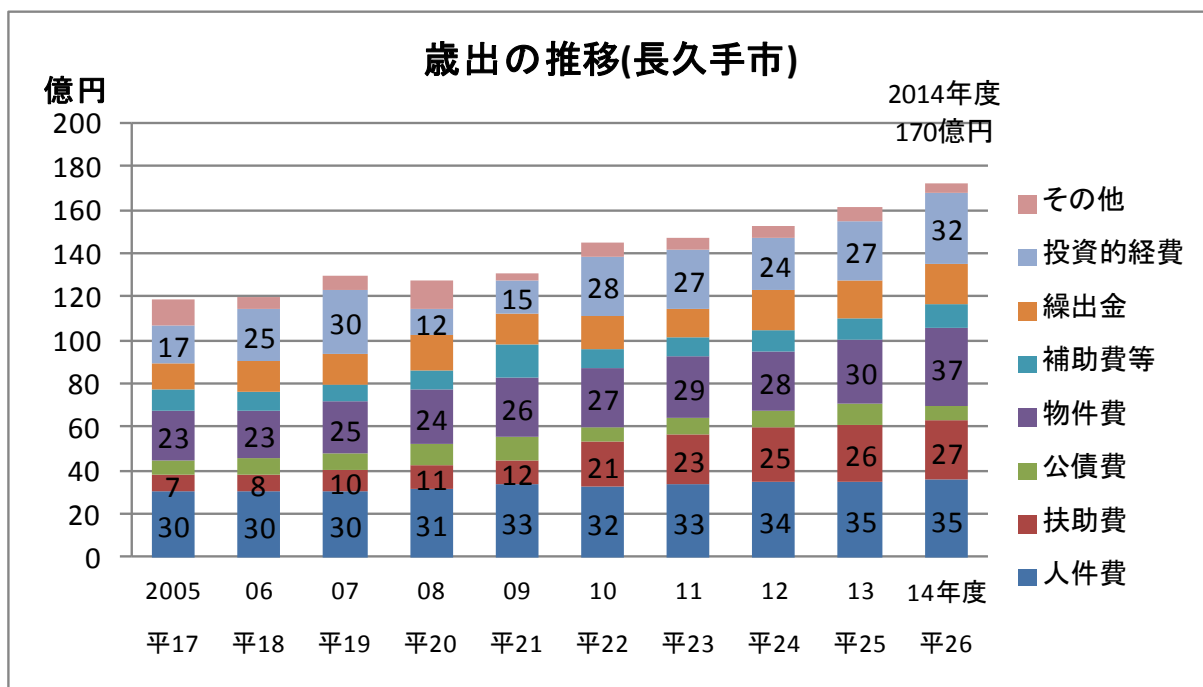
全国的に財政面の制約が進みます。様々な社会インフラが相当に年数を経たものが増え、維持管理の経費が膨大になると見込まれます。

国民の所得（給与）が減少していくと予測される中、財源が制限されるのは長久手市の場合も例外ではありません。限られた財源の中で、これまでに整備された社会インフラを有効に活用していく必要があります。

建築後 50 年を経過する社会資本割合

	2013年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋（約40万橋）	約18%	約43%	約67%
トンネル（約1万本）	約20%	約34%	約50%
河川管理施設（約1万施設）	約25%	約43%	約64%
下水道管きよ（総延長約45万km）	約2%	約9%	約24%
港湾岸壁（約5千施設）	約8%	約32%	約58%

出典：国土交通白書 2014



資料：長久手市財政課

③ 恵まれた社会資本

市内には、観光レクリエーション施設として県内有数の社会資本として長久手温泉ござらっせ、愛・地球博記念公園があるのをはじめ、文化・芸術で文化の家があります。

さらに、農業、健康・医療、福祉、ものづくりの各分野で、全国、あるいは県内屈指の社会資本があります。この他にも市内の愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、周辺の大学も含め「知の拠点」ともいべき社会資本が集積しています。これらの多くの施設で、近年、社会課題を解決するべく産学連携が図られています。

恵まれた社会資本を活かしていくことが、ますます多様化するであろう将来のまちづくりを考える上では重要です。

長久手温泉ござらっせ

(長久手市前熊下田)

平成 14 (2002) 年開設。健康、福祉、交流がテーマの「福祉の家」に併設した天然温泉。隣接する「あぐりん村」とともに名古屋、瀬戸、尾張旭など近郊からの利用者が多い。



出典：長久手温泉ござらっせホームページ

愛・地球博記念公園 (モリコロパーク)

(長久手市茨ヶ廻間)

愛知青少年公園として昭和 45 (1970) 年開設。平成 17 (2005) 年に日本国際博覧会を開催し、平成 18 (2006) 年に愛・地球博記念公園として開設。県内屈指の都市公園。「サツキとメイの家」、大観覧車(東海地方 NO1 の高さ)、各種スポーツ施設が備わり、四季折々の花々の美を楽しみ、週末には催し物も多い。



出典：愛・地球博記念公園ホームページ

文化の家

平成 10 (1998) 年開設。独自の取組が国から評価を受け、平成 19 (2007) 年には JAFRA アワード (総務大臣) を受賞

◆施設の特徴

- ・生涯学習的な役割を果たすアトリビングと大小 2 つのホール
- ・森のホールの可動式舞台は、様々なイベントに対応できる全国的に希な舞台機構
- ・世界の三大ピアノメーカー 2 社の各最高ランク機種を所有
- ・稼働率は、近隣の劇場の 50% 前後に対し、70~80% と高い。

◆積極的に自主事業を展開 (過去 3 か年の年平均 140~150 本)

地元アーティストや愛知県立芸術大学とタイアップした教育プログラムが充実、アウトリーチ活動、市民参画プロジェクトも。



出典：文化の家

◆農業

愛知県農業総合試験場

(長久手市岩作三ヶ峯)

昭和41(1966)年に農業総合試験場として開設。県内5か所の施設の本場として、作物、園芸、畜産など各分野において、新たな品種や農業技術の研究・開発が行われている。



出典：愛知県農業総合試験場ホームページ

あぐりん村(長久手市前熊下田)

平成19(2007)年4月開設。都市近郊農業の活性化や地産地消、都市農村交流の促進を目的に、農産物直売所やふるさと薬膳レストラン、パン工房、ふれあい農園などを備えた交流拠点施設



出典：あぐりん村ホームページ

◆歴史・文化

古戦場公園(長久手市武蔵塚)

昭和61(1986)年開設。小牧・長久手の戦いの主戦場跡地として国指定史跡に指定され、古戦場公園として整備されている。園内には古戦場を模した広場や秀吉方の武将の塚などがあり、郷土資料室を併設している。「日本の歴史公園100選」にも選ばれており、毎年4月上旬に長久手古戦場桜まつりが開催されている。



出典：長久手市観光交流推進会議ホームページ

色金山歴史公園(長久手市岩作色金)

平成8(1996)年開設。小牧・長久手の戦いの折りに徳川家康が陣を張った地で国指定史跡となっている。山頂には家康が腰掛けたといわれる「床机石(しょうぎいし)」が残され、園内には展望テラスや犬山の国宝茶室「如庵」を模した茶室「胡牀庵(こしょうあん)」などがある。



出典：長久手市観光交流推進会議ホームページ

◆健康・医療

愛知医科大学運動療育センター

(長久手市岩作雁又)

昭和63(1988)年1月開設。健康づくりに関わる施設が備わり、各種事業が幅広く行われている。



出典：愛知医科大学ホームページ

◆福祉

介助犬総合訓練センター

～シンシアの丘～(長久手市福井)

全国で初めての介助犬専門訓練施設として平成21(2009)年5月に開設。介助犬を目指す犬達が快適に過ごせるような工夫や、できるだけ「家庭」に近い雰囲気の中で障がい者がくつろげるよう丁寧に設計されている。



出典：介助犬総合訓練センターホームページ

◆健康・スポーツ

杵ヶ池体育館・テニスコート

(長久手市杵ヶ池)

昭和62(1987)年開設。杵ヶ池公園内にあり、アリーナ、トレーニングルーム、柔剣道場、卓球室などを備えた体育館とテニスコートを有する。



出典：長久手市ホームページ

スポーツの杜(長久手市岩廻間)

平成8(1996)年開設。長久手市の北部に位置し、野球、サッカー、陸上競技などが楽しめる施設である。



出典：長久手市ホームページ

市民野球場(長久手市岩作琵琶ヶ池)

昭和54(1979)年開設。リコモ芸大通駅北側に位置し、夜間照明設備が整った軟式野球場である。



出典：長久手市ホームページ

愛知県口論義運動公園(日進市北新町)

昭和58(1983)年開設。長久手市の南側に隣接し野球場、サッカー場、温水プール、テニスコートを有する。平成27(2015)年4月から、スポンサーとなる団体が施設に名称をつける権利を購入できるネーミングライツが導入され、愛称が「名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園」となっている。



出典：愛知県口論義運動公園ホームページ

◆研究機関

(株)豊田中央研究所(長久手市横道)

豊田佐吉翁の遺訓「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を会社の基本精神として昭和35(1960)年に設立。昭和55年(1980)年に現在地に移転。

持続可能で安心な社会の実現を目指し、環境、エネルギー、社会システム、情報、エレクトロニクス、機械、材料など幅広い分野で研究活動が行われている。



出典：(株)豊田中央研究所ホームページ

知の拠点あいち(豊田市八草町)

平成24(2012)年開設。付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発の拠点。高度計測分析機器を整備し企業の研究開発を支援する「あいち産業科学技術総合センター」、産業利用を重視した共同利用施設「あいちシンクロトロン光センター」及び新エネルギー関連技術の実用化を促進する「新エネルギー実証研究エリア」で構成されている。



出典：知の拠点あいちホームページ

◆大学

愛知県立大学（長久手市茨ヶ廻間）

昭和 41（1966）年開校。市内と名古屋市守山区に 2 つキャンパスを持つ。長久手キャンパス（平成 10（1998）年に名古屋市瑞穂区から移転）に外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部と情報科学部を、守山キャンパスに看護学部を有する。



出典：愛知県立大学ホームページ

愛知県立芸術大学（長久手市岩作三ヶ峯）

昭和 41（1966）年開校。特色のある文化圏を築き、地方文化の向上発展の寄与を目的とする。美術学部、音楽学部を有する。



出典：愛知県立芸術大学ホームページ

愛知医科大学（長久手市岩作雁又）

昭和 47（1972）年開校。「充実した教育・研究環境のなかで、新時代の医学医療を担う人材を育成するとともに、私学の特性を鑑み、社会福祉、殊に地域医療への貢献と国際的な医療の進歩・向上への協力を目指すこと」を理念・目的とする。医学部、看護学部を有する。



出典：愛知医科大学ホームページ

愛知淑徳大学（長久手市片平二丁目）

母体の愛知淑徳学園は明治 38（1905）年に誕生、翌年に県下初の私立高等女学校を名古屋市に開校。昭和 50（1975）年長久手市に大学を開校。長久手キャンパスには文学部、人間情報学部、心理学部、メディアプロデュース学部、健康医療科学部、福祉貢献学部を有する。



出典：愛知淑徳大学ホームページ

愛知学院大学（日進市岩崎町）

昭和 28（1953）年開校。昭和 49（1974）年に日進キャンパス開校。日進キャンパスには文学部、心身科学部、法学部、総合政策学部を有する。

名古屋外国語大学（日進市岩崎町）

昭和 63（1988）年開校。外国語学部、現代国際学部を有する。

椋山女学園大学（日進市竹の山三丁目）

昭和 24（1949）年開校。昭和 62（1987）年に日進キャンパス開校。日進キャンパスには人間関係学部を有する。

名古屋商科大学（日進市米野木町）

昭和 28（1953）年開校。昭和 43（1968）年に日進キャンパス開校。日進キャンパスには経営学部、経済学部、商学部、コミュニケーション学部を有する。

名古屋学芸大学（日進市岩崎町）

平成 14（2002）年開校。管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部を有する。

愛知工業大学（豊田市八草町）

昭和 34（1959）年開校。昭和 49（1974）年に八草キャンパスに移転。八草キャンパスには工学部、経営学部、情報科学部を有する。

◆博物館、美術館

トヨタ博物館（長久手市横道）

平成元（1989）年開館。19世紀末から現在までの自動車文化の業績史が凝縮された、質、量ともに世界レベルを誇る自動車博物館。往年の名車の歴史をたどるギャラリーの展示車台数は約120台にも及び、世界の名車が一堂に会する様子は圧巻である。



出典：トヨタ博物館ホームページ

名都美術館（長久手市杵ケ池）

平成4（1992）年名古屋市中区より移転。所蔵品は近現代の日本画が中心で、特に上村松園、鎗木清方、伊東深水の美人画が充実している。季節やテーマに合わせた所蔵品展のほか、多彩な企画の特別展が催される。



出典：名都美術館ホームページ

愛知県陶磁美術館（瀬戸市南山口町）

愛知県政100年記念事業として昭和53（1978）年に「愛知県陶磁資料館」として開館。コレクションは3点の重要文化財を含む7,000点以上あり、国内屈指の陶磁専門ミュージアムとして成長している。開館35周年を迎えた平成25（2013）年6月に現在の名称に変更。



出典：愛知県陶磁美術館ホームページ

◆交通

東部丘陵線「リニモ」

平成17（2005）年に開業。長久手の中心部を走り、営業路線としては日本初の磁気浮上式リニアモーターカー。一編成を貸切りで利用できる「わくわく貸切りリニモ」、結婚式など各種イベントに利用できる「イベント貸切りリニモ」、クリスマスには美しく装飾された特別列車「リニモクリスマストレイン」を運行する。市民が運営に参画する「リニモウォーキング」など、楽しいイベントも行われている。



出典：愛知高速交通(株)ホームページ

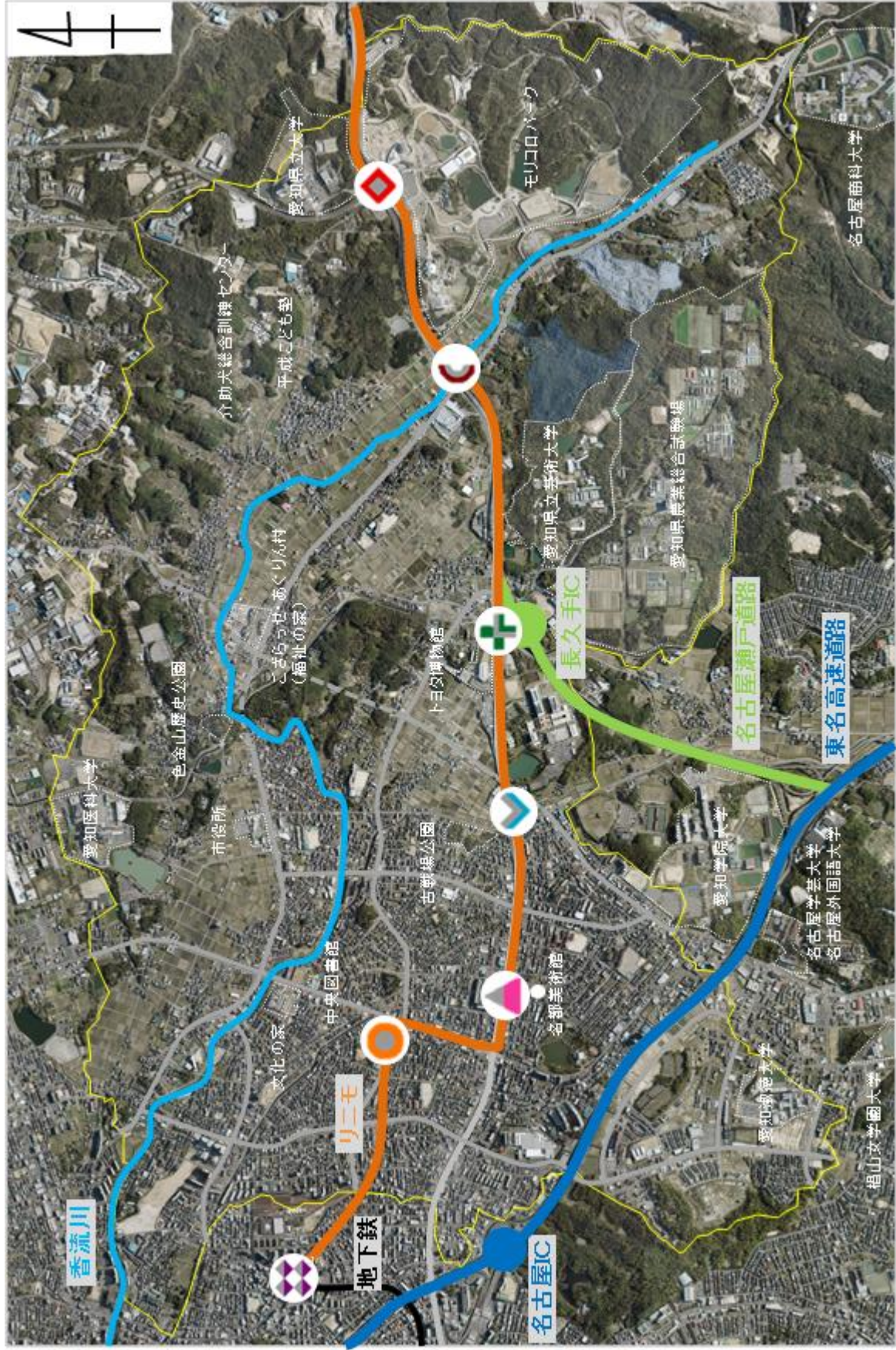
Nーバス

長久手市が運営するコミュニティバスで平成10（1998）年に2台4ルートで運行開始。平成23（2011）年4月には現在5台7ルートとなり、平成26（2014）年3月にバスロケーションシステムを導入し、路線の見直しをするなど、利便性の向上を図ってきている。



出典：長久手市ホームページ

長久手市の現状写真

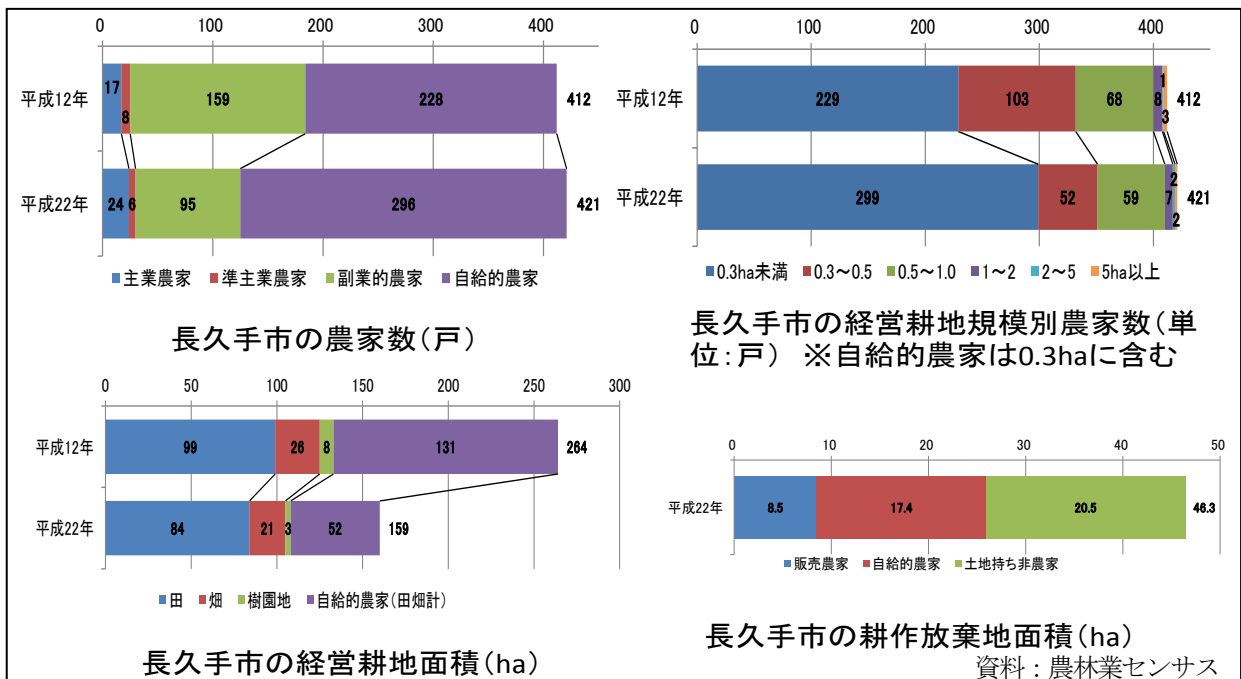


④ 今有る自然を残す

長久手市の特徴として、土地区画整理事業等による計画的な市街地開発と、北部や東部に広がる自然の双方を有し、バランスの取れた市域が形成されています。

特に東部や北部において中心的に営まれている農業は、経営耕地面積が減少している一方で、自給的農家を中心に農家数が増加しており、市が遊休農地をあっせんして法人、NPOが参入してきたり、たがやっせにおける市民農園が開園以降、全区画が埋まっているなど、本市の取組により、都市近郊の農業への取組が少しずつ浸透していると考えられます。

今有る自然を長久手市のいいところとして残していくことが重要です。



耕作放棄地対策

- ・前熊堀越地区において、農地のあっせんを行っており、これまでに約 12ha のうち約 8.8ha の耕作放棄地が解消されました。(平成 22 (2010) ~継続)
- ・前熊堀越地区において、景観向上、土づくり、雑草防止等のため、耕作していない畑にコスモスや菜の花を植えました。(平成 20 (2008) ~平成 25 (2013))



出典：長久手市産業課

市民農園 ふれあい農園 たがやっせ

- ・平成 15 (2003) 年開園。30 m²の区画で、利用者同士交流しながら、趣味的に農を楽しめます。
- ・地元農業者による団体「たがやっせサポートクラブ」がモデル農園の作付け、栽培講習会のほか、随時利用者へ栽培指導を行っています。
- ・開園以来、66 区画すべて利用されています。

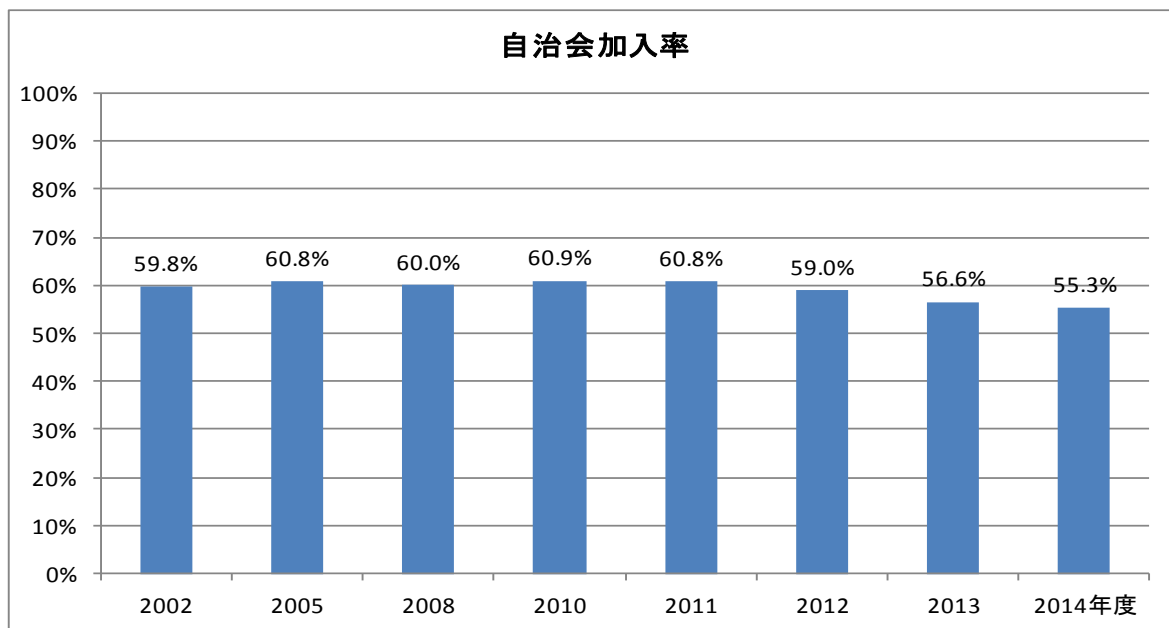


出典：長久手市産業課

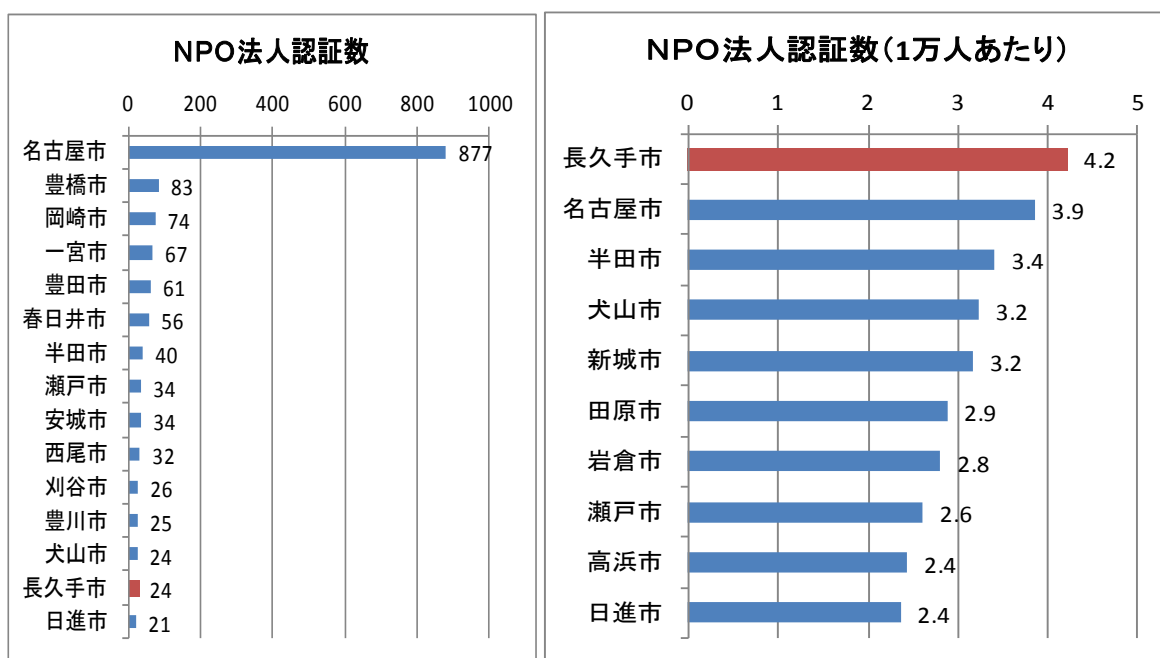
⑤ コミュニティ、人材

長久手市の場合、市外からの転入による人口増加が続いている半面、今後のまちづくりではコミュニティの役割が重要となってきます。しかし、自治会加入率は近年低下しており、半数程度にとどまっています。

その一方で、NPO認証数は都市規模の割に多く、様々な分野のNPOが活躍しており、地域でのまちづくりの担い手として期待されます。



出典：長久手市たつせがある課

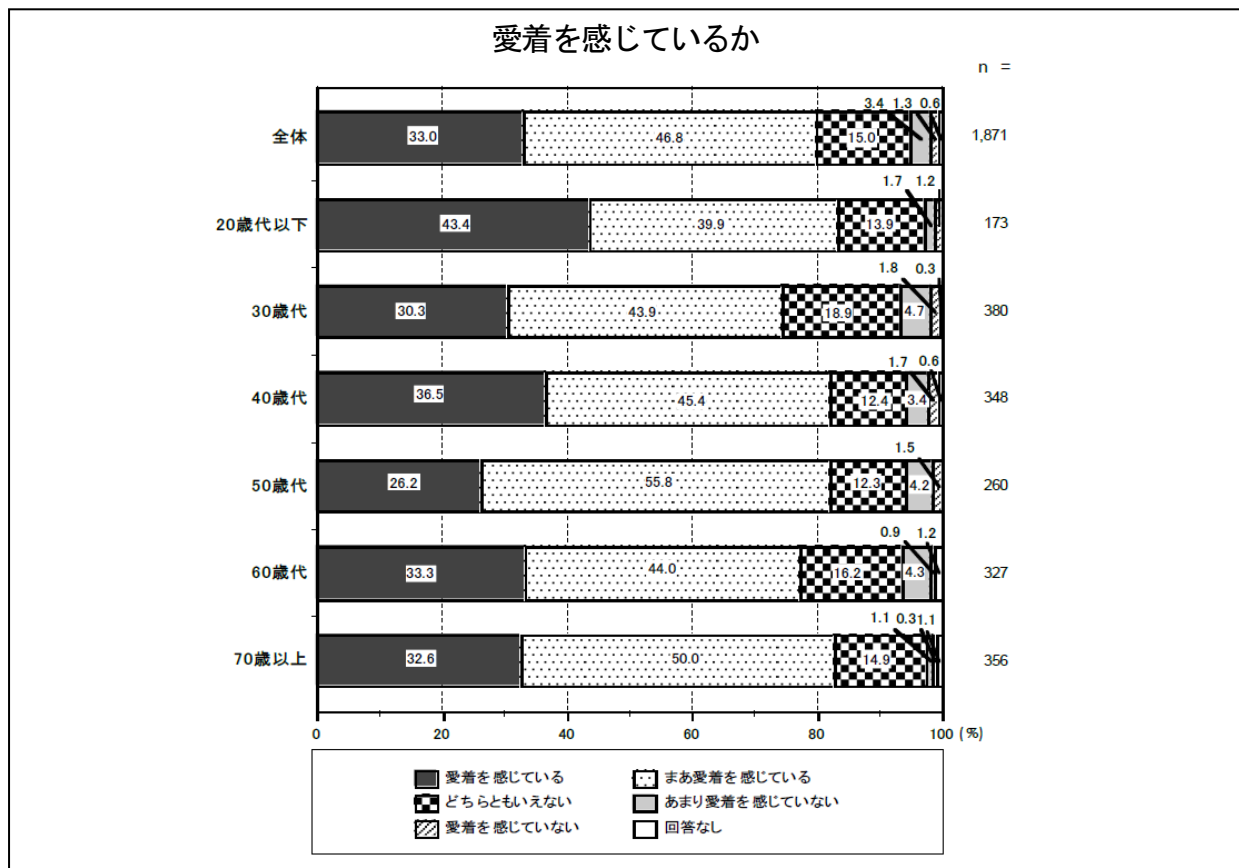
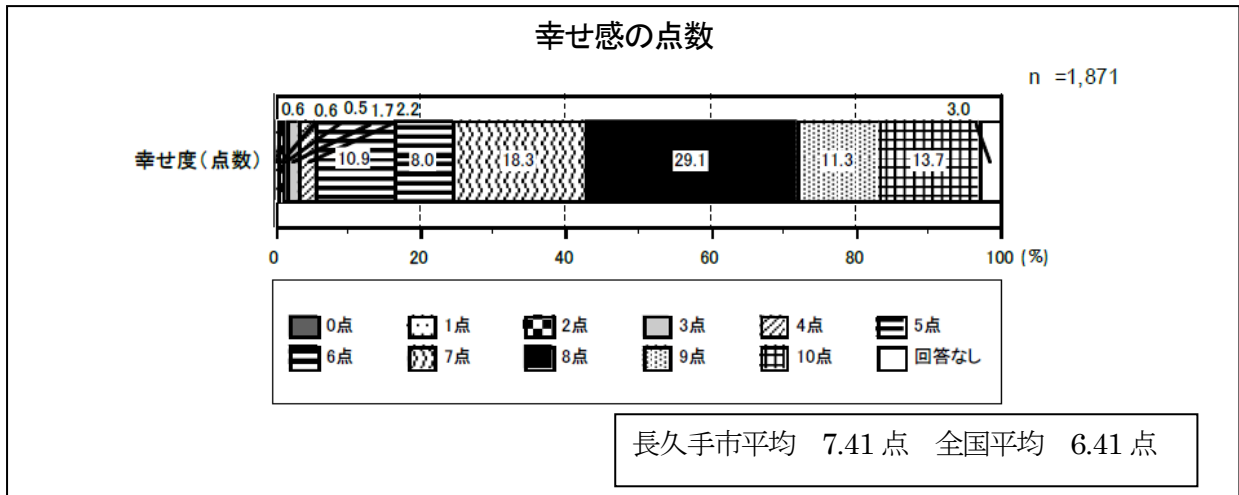


資料：あいちNPO交流プラザ 特定非営利活動法人の申請認証状況（市町村別、平成26（2014）年12月31日現在）、愛知県人口動向調査（年報）平成26（2014）年を元に作成

⑥ 誇りを感じてもらえるために「幸せのモノサシ」

住む人も、働く人（市外に住んで働きに来る人）も、長久手市で住んでいる・働いていることを誇りに感じてもらえることが重要です。

その意味で、長久手市では昨年末に「ながくて幸せ実感アンケート」を実施しました。その結果をみると、「幸せ」の点数が全国より高くなっています。一方、愛着を感じている人は20歳代以下で多いのに対し、30歳代で少ないのは長久手市の課題と言えます。



出典：ながくて幸せ実感アンケート報告書（平成26（2014）年12月）

2 若者の意見（若者座談会、中学生作文）

1 若者座談会及び中学生作文の概要

「1 長久手市の現状の把握」に続き、ビジョンの作成には平成 62（2050）年頃もまちづくりへの主体的な関わりが期待される若者の意見を反映させる必要があるとの考えから、若者座談会と中学生作文を実施しました。

- ① 若者座談会：長久手市のまちづくりに関心がある 20 歳代～30 代の若者 10 人に平成 27（2015）年 3 月 1 日に集まっていたいで開催。
- ② 中学生作文：長久手市内の 3 つの中学校の 2 年生を対象に、平成 27（2015）年 2～3 月に「長久手の将来」をテーマに作文を書いていただき、計 467 人が提出。
これらの主な意見をまとめると次のようになります。

<主な意見>

- 市の認知度を高める
- 遊べる場を増やす
- 公共交通の利便性向上
- 地域間、世代間の交流の向上
- 自然の保全、緑を増やす
- チャレンジしやすくする
- （顔が見える、やりたいこと）働く・仕事 ができる
- 歴史（史跡、文化）の保全 など



若者座談会の様子

2 若者座談会での意見の整理

①「住む」、「働く」、「憩う」場所として充足、欠落している点

- ・万博を契機にライフラインが充実
- ・暮らすだけなら不自由はなく、いいところ
- ・買い物、公園の利便性がよく、住宅街も静かで、子育て向きのまち
- ・東部地域は、田園風景も残り、地域の交流もあるが、市が洞地区は別のまちのような雰囲気、地域間の連携がない
- ・(長久手に来るまで) 万博のあったまちという認識程度、地名と場所が一致しなかった
- ・若者が遊べる場がない
- ・公共交通（特に東部地区）が不便
- ・待機児童が多い
- ・自転車専用レーンがないと危険
- ・ゴミのポイ捨ても多い
- ・世代間の交流をつくっていききたい

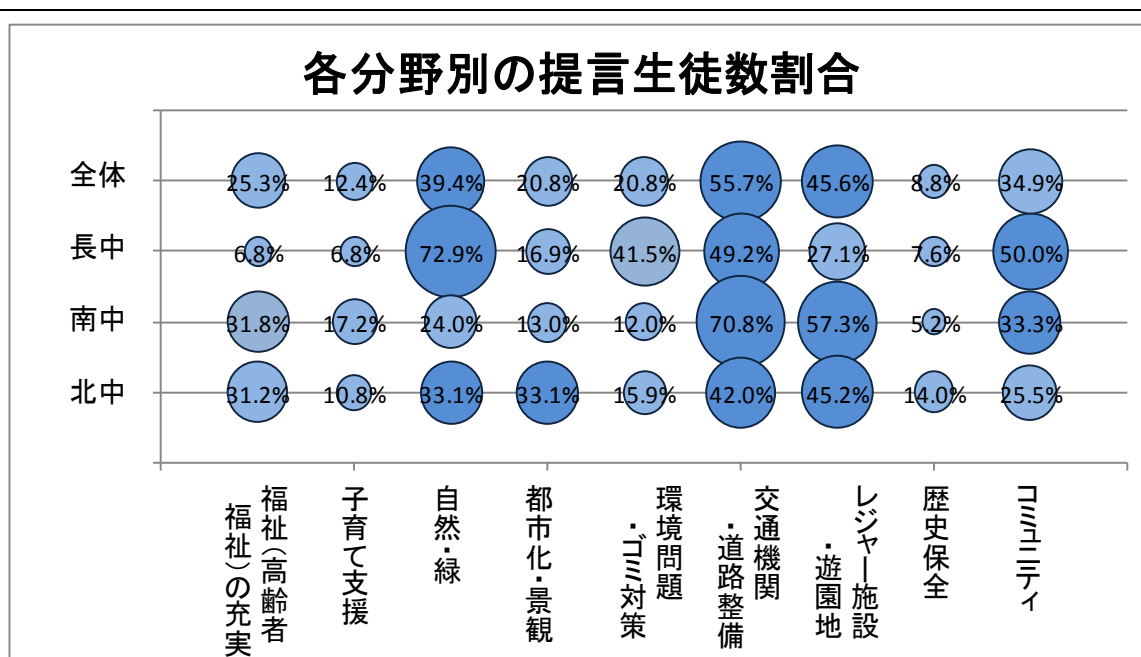
②35年後、長久手でどんな暮らし（生活）をイメージできるか

- ・顔が見える関係での働く場が増えてくるといい
- ・都市はどこに行っても同じような店が多い。長久手の味を出せる店が増えてくるといい
- ・自然（田園風景）を残して欲しい
- ・公共交通が使いやすくなるといい
- ・発展しすぎないまちがいい
- ・市民同士が集まり、自分達で変えていくまちにしたい
- ・農業との関わりが持てるといい
- ・やりたい事を仕事にできるといい
- ・年配の人との連携

③長久手のまちの将来イメージにキャッチフレーズをつけると？

- ・帰ってきたくなるまち
- ・ふれあい（やさしい、あったかい、顔がみえる）のまち
- ・子どもも大人も一緒に、まちも一緒に育む
- ・チャレンジしやすいまち
- ・コンパクトシティ
- ・活かすまち
- ・変わる所と変わらない所の両方がしっかりあるまち

3 市内中学生作文のキーワード整理（複数回答）



(提言が多かった分野—全学校)

- 交通機関・道路整備 55.7%
- レジャー施設・遊園地 45.6%
- 自然・緑 39.4%

(学校別—長久手中学校)

- 自然・緑 72.9%
 - ・発展しすぎない
 - ・自然の体験施設
 - ・クリーン&グリーンタウン
- コミュニティ 50.0%
 - ・住む人が自分のまちづくりに協力
 - ・高齢者が増えても互いに助け合う
 - ・交番の設置
- 交通機関・道路整備 49.2%
 - ・リニモの無料化、マナカ利用
 - ・N-バスの増便

(学校別—南中学校)

- 交通機関・道路整備 70.8%
 - ・リニモの運賃値下げ、運行経路の拡張
 - ・N-バスのオンデマンド化
 - ・信号機、横断歩道、ガードレール、歩道橋設置などの交通安全対策
 - ・歩道の段差解消

- レジャー施設・遊園地 57.3%
 - ・映画館、ボーリング場
 - ・モリコロパークのテーマパーク化、遊園地の誘致
- コミュニティ 33.3%
 - ・独居老人の見守り、あいさつによるご近所づきあい
 - ・防犯カメラ

(学校別—北中学校)

- レジャー施設・遊園地 45.2%
 - ・映画館
 - ・モリコロで子どもからお年寄りまで楽しめるイベントを実施、ご当地グルメの開催
- 交通機関・道路整備 42.0%
 - ・リニモの運賃値下げ
 - ・N-バスで史跡めぐり
 - ・渋滞対策のための道路整備
- 自然・緑 33.1%
 - ・自然を残しつつ、グリーンロード沿線に商店を充実
 - ・若者に農業に興味をもってもらう教育
- 都市化・景観 33.1%
 - ・ショッピングモール
 - ・荒れた雑木林や空き地に店や公共施設を建設

3 学識経験者等による意見交換（長久手未来まちづくり懇話会）

市長、市議会議長をはじめ各方面の学識経験者等を委員として 14 名で構成される「長久手未来まちづくり懇話会」を平成 27（2015）年 1～7 月にかけて計 7 回開催し、このビジョンを検討してきました。

長久手市の現状や若者の意見を踏まえて、専門的な見識から意見交換がされ、以下の主な論点が整理されました。

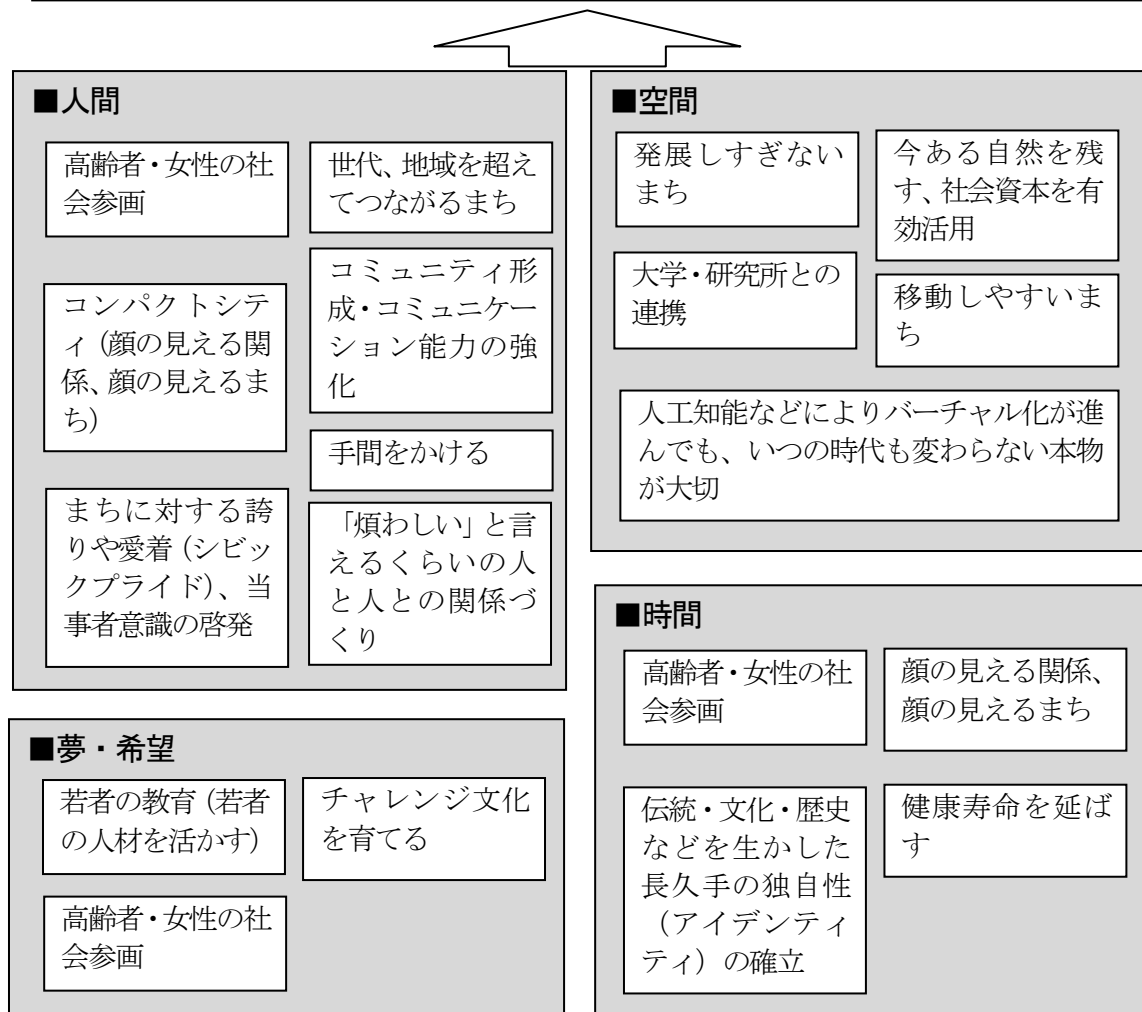
■全体テーマ

人・場・時をつなぎ、夢をはぐくむ長久手

ー長久手人(ながくてびと)こそ私たちの誇り、気長に手をかけ、みんなで未来を拓くー

■個別テーマ

- 1 人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり
- 2 場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり
- 3 時をつなぐ／歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり
- 4 夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり



長久手未来まちづくり懇話会の概要

①懇話会のスケジュール

日 時	内 容
第1回 平成27(2015)年1月15日(木)	長久手を取り巻く社会情勢と将来
第2回 平成27(2015)年2月20日(金)	将来課題の抽出
第3回 平成27(2015)年3月30日(月)	テーマ設定
第4回 平成27(2015)年4月17日(金)	テーマ設定
第5回 平成27(2015)年5月14日(木)	テーマ検討(分科会方式)
第6回 平成27(2015)年6月26日(金)	長期ビジョン素案の検討
第7回 平成27(2015)年7月31日(金)	長期ビジョンの検討

②懇話会委員

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属 ・ 役 職
うえまつ りょうた 植松 良太	トヨタ自動車(株) 総務部 管財・渉外室長
おおば たくや 大庭 卓也	(株)CBCテレビ 調査役 兼 (株)CBCビップス代表取締役社長
かとう よしろう 加藤 義郎	長久手市商工会 顧問 (平成27(2015)年5月31日まで、会長)
かわい やすお 川合 保生	長久手市議会 議員 (平成27(2015)年4月30日まで、議長)
くぼた けんいち 久保田 健一	ユニー(株) 開発本部 企画部 シニアマネジャー (平成27(2015)年2月20日まで、開発本部店舗開発部中京西開発担当部長)
こぼやし ひでお 小林 英雄	長久手市政策アドバイザー 元東海銀行専務取締役
こんどう としお 近藤 鋭雄	あいち尾東農業協同組合 長久手地域総括理事
さとう けいじ 佐藤 啓二	愛知医科大学 学長
しもぎき かずひろ 下崎 一洋	日東工業(株) 経営管理本部 経理部長 (平成27(2015)年2月28日まで、経営管理本部 総務部長)
たかやなぎ ともこ 高柳 友子	社会福祉法人 日本介助犬協会 事務局長
たにざわ あきら 谷沢 明	愛知淑徳大学 交流文化学部長
ほそかわ おさむ 細川 修	愛知県立芸術大学 名誉教授 (平成27(2015)年3月31日まで、美術学部長)
もちづき あきら 望月 彰	愛知県立大学 教育福祉学部長
よしだ いっぺい 吉田 一平	長久手市長

コーディネーター

いざわ ともかず 井澤 知旦	名古屋学院大学 現代社会学部 教授 (平成27(2015)年3月31日まで、経済学部 教授)
-------------------	---

長久手未来まちづくりビジョン
人・場・時をつなぎ
夢をはぐくむ長久手

長久手人こそ私たちの誇り
気長に手をかけ みんなで未来を拓く

平成 27 (2015) 年 10 月

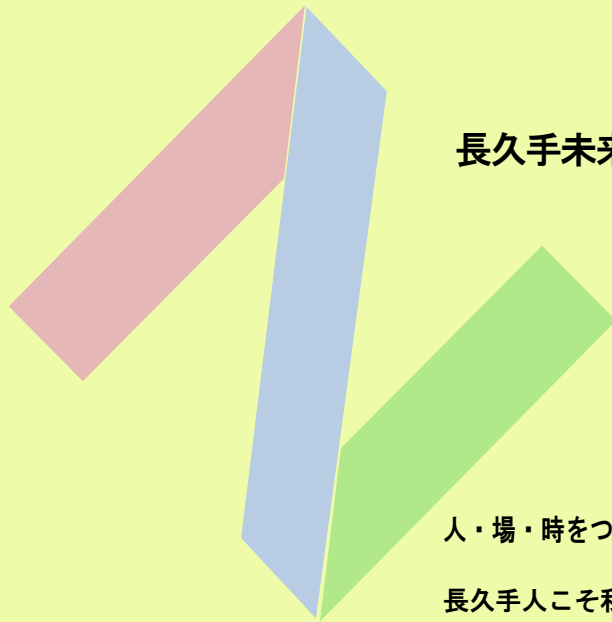
発行 長久手市

編集 市長公室政策秘書課

〒480-1196

長久手市岩作城の内 60 番地 1

TEL 0561-63-1111



長久手未来まちづくりビジョン

人・場・時をつなぎ 夢をはぐくむ長久手

長久手人こそ私たちの誇り
気長に手をかけ みんなで未来を拓く